

ご卒業おめでとう！ ～ 3月19日（木）77名の卒業生の巣立ちの日 ～

【学校長式辞を一部抜粋】 皆さんにお別れに当たって「三意の精神」という言葉を贈ります。「意」は心がけ、気持ちという意味です。

三意の一つめは、「熱意」の「意」です。「熱意こそ、夢を実現するためのエネルギーの源である」といわれるように、熱意は物事を成功に導く重要な心の力です。松下電器産業（現在のパナソニックの初代社長である）松下幸之助氏は、社員に対して「能力は60パーセントでいい。熱意があるかどうかの方が大切」と言い切っています。仕事をこなすとき、大切なのは能力だと思いがちです。学校で勉強が「できる人が優等生。できない人は落ちこぼれ」と考えがちです。しかし、本当に大切なことは「熱意」です。熱意や情熱を持ってやっていたら、最初はできなくても、できるようになります。できるから熱意を持つわけではありません。熱意を持ってやるから、できるようになるのです。あなたの叶えようとしている夢に対して、熱意があるかどうか大切です。夢を追いかけている途中、なかなかうまくできなくて、落ち込むこともあるでしょう。悩むこともあるでしょう。しかし、熱意があれば「できるように頑張ろう！」と根気で切り抜けることができるのです。

二つめは、「創意」の「意」です。「創意は、たくましく生き抜くための貴重な食料である」という言葉があるように、私たちの生活でさまざまな知恵を発揮しながら「工夫する」ことは大切なことです。IPS細胞の発見で世界を仰天させ、見事ノーベル賞に輝いた京都大学の山中教授は、『ありえない、起きない』という“通説”をくつがえす“仮説”を立て、研究した新発見は、創意工夫の結晶であったと言われました。皆さんも、「創意工夫の心」を持ち続け、自分の目標に向かって前進して欲しいと思います。

三つめは、「誠意」の「意」です。まごころです。世界の人に惜しまれながら天国に旅立ったマザーテレサは、「温かい心」の持ち主でした。皆さんも常に「誠意・真心」を持って人に接し、「思いやりの心」に満ちた人生を創り上げて欲しいと思います。

どうか「熱意・創意・誠意」という「三意の精神」を持ち続け、21世紀の日本を確かに頼める人間に成長してください。卒業生の未来が希望に満ちた輝かしいものになることをお祈りして式辞といたします。

**ご退職・ご転任される先生方へ
ご健勝とご活躍をご祈念申し上げます**

担任等	氏名	転任校			
教頭	町田 秀敏 先生	戸倉小学校（校長）			
養護	本山太い子 先生	退職	2年松組	南澤 優子 先生	古牧小学校
ことば	中澤 洋子 先生	松本ろう学校	3年梅組	宮本 和男 先生	埴生小学校
あんず組	瀬在久美子 先生	坂城小学校	3年竹組	大西 創 先生	都立日本橋高校
4年竹組	飯山めぐみ 先生	四賀小学校（諏訪）	学習習慣	戸井田直子 先生	治田小学校

「別れ」：「わすれられないおくりもの」 ～三学期 終業式～3/18

《三学期を振り返って》6年生の代表児童3名が三学期を振り返って、発表をしま

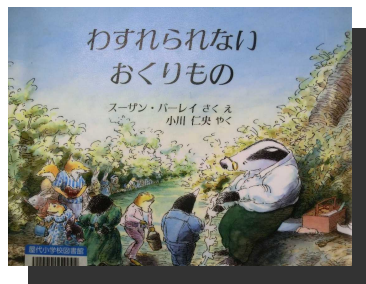


した。松組の仁科凱地さんは、「ぼくが三学期にがんばれたことは、『発言』と『あいさつ』です。・・・あいさつは6年生全体で目標にしたことです。あいさつをすると気持ちいいし、返ってくると、うれしいとうことを実感しました。」竹組の渡部勇太さんは、「三学期に3つの目標を立てました。3つ目の『委員会の引き継ぎをしっかりやる』が一番力を入れてやっていたと思う目標です。

引き継ぎで5年生が困らないように説明する原稿を考えました。精一杯できたので気持ちがすっきりしました。」梅組の小岩恋菜さんは、「私たちは2年間一緒にすごしたヤギのユキちゃんとお別れをしました。・・・ユキちゃんの乳で作ったチーズケーキはクラスみんなで食べました。とてもおいしかったです。ユキちゃんとはいろいろなことがあったけれど、楽しい思い出がたくさんつくれました。」

《校長先生のお話より一部抜粋》新しい春に向けて、どんなお別れができるか、「別れ」ということを大事にしてほしいと思います。そこで、「別れ」ということをテーマにした、「わすれられないおくりもの」という絵本を読みしたいと思います。

かしこくて、いつもみんなに頼りにされているアナグマがいました。困っている友だちは、誰でも助けてあげます。アナグマは大変年をとっていたので、自分がもうすぐ死ぬことを知っていました。アナグマは死ぬことを恐れてはいませんでしたが、あとに残していく友だちのことを心配していました。そして、ある日静かに亡くなりました。森のみんなは、アナグマを愛していましたから、とても悲しみました。なかでもモグラは、やりきれないほど悲しくなりました。・・・



春がきて、外に出られるようになると、みんなは互いに行き来しては、アナグマの思い出を語り合いました。誰でも何かしら、思い出がありました。・・・アナグマは、一人一人に、分かれた後でも、宝物となるような、知恵や工夫を残してくれました。みんなはそれで、互いに助け合うこともできました。最後の雪が消えた頃、アナグマが残してくれたものの豊かさで、みんなの悲しみも消えていました。アナグマの話が出るたびに、いつも楽しい思い出を話すことができるようになったのです。

さて、皆さんにとってのアナグマはだれですか。この1年間で、ずいぶんいろいろなことができるようになりましたね。今、あたりまえのようにできていること、その一つひとつには、皆さん一人ひとりの努力もありますが、陰には見えない手で支え、教えてくれた『アナグマ』がきっといたはずです。先生、お友達、お父さんやお母さん、お兄さんやお姉さん、ゆきちゃんやよつばかも知れない。美しく咲き誇った花壇の花達かもしれません。誰の心の中にも、「わすれられないおくりもの」を残してくれた『アナグマ』がいるはずです。